

ヒトツナギ×島前 交流会

今回ヒトツナギ部が島前の地域の方々と交流会を行ったのは、現在ヒトツナギ部のメンバーのほとんどが島外生ということで島の人たちの関わりが薄いものになってしまった上、半年で旅のプランを考えなければいけないということで例年のヒトツナギの活動とほとんど内容が同じになってしまいその年らしさが欠けていたこと、そしてメンバー間の思いの共有ができていなかったということに問題があったからでした。

交流会は、メンバーが観光甲子園に出場したときのプレゼンを発表し、そのあとに自分のヒトツナギに対する思いを伝え、島の方々と話し合いを行うという流れで行いました。私は、大学に入って初めて島前高校、そしてヒトツナギを知りましたが、メンバー一人一人の思いを聞いているとヒトツナギの活動は大変であること、そしてそれぞれヒトツナギの活動に強い想いを持っていることが伝わってきました。意見交換会では、島の方々もメンバーの気持ちを受け止め、そして島の方々が島を大切に思っているからこそ、今後のヒトツナギをどう変えていけばいいか真剣に考えてくださっていました。そこでよく話題に上がったのは、やはり近年のヒトツナギのプランにその年らしさが足りないということでした。企画まで時間がないというのも現状を聞いていると分かりましたが、ほとんど企画が変わらないというのはよくないと思ったので、私自身も大きくプランを変更してみたらどうかと提案しました。島の方々の言葉を真摯に聞いてメモしている姿からもやる気をうかがうことができたので、今後この交流会を元にヒトツナギ部をどういったものに変えていくかを楽しみです。

西ノ島中学校

西ノ島中学校に通っている中学生は、島の中学生は大学生と触れ合う機会はほとんどないということで、今回は初対面の人に質問してその人を紹介するという活動を行いました。中学生と活動を始めて思ったのは、人見知りの子が多いのかなということでした。最初から質問し始めることができず、結局私から自分のことを話してしまいました。しかし、島という小さなコミュニティの中で生活していると人見知りになるのは仕方がないことなのかもしれません。普段話す人と言えば、仲のいい友達や近所の人、または学校の先生。私自身も小さな町の出身で、中学生まではかなり人見知りが激しいほうでしたが、外の世界に触れることで、それは少しずつですが治っていきました。これから西野島中学校の生徒は外からゲストを呼んでお話してもらおうという活動があるらしいので、今回の活動などを通して知らない人と話していくことに慣れていけたらいいのではないかと思います。今回改善したほうが良いと思ったのは、いきなり中学生に質問させるのは難しいと思うので、大学生から中学生に質問をす

るという形をとればよかったのではないかということです。または、時間があるならば、最初に中学生と遊んだり、打ち解けてから、活動に移れば、もっとスムーズに作業が進んだのではないかと思います。しかし、今回島の中学生と少しだけですが、普段の生活や考えている進路について聞くことができ、自分のプラスになるものもあったので、よかったと思います。

夢ゼミ

今回のテーマは自分の夢、今やりたいと思っていることを **want**、**can**、**need** に分けて書き出し、「自分のやりたいこと」と「求められていること」の重なりを見つけることが目標でした。それぞれ時間を振り分けて **want** は自分の夢、やりたいこと、**can** はそれを実現するにはできることは何か、**need** はその夢が周りの人に求められているのかどうか、周りが求めているものは何かを考えました。**want**、**can** は考えやすいものだったので、わりとスムーズに進みました。高校生を見てるとしっかりとした夢がある子がいたり、まだ何もやりたいことがない子がいたりと様々でした。夢がある子にどうしてそれがやりたいのかと聞くと「ただやりたいと思ったから」とか「なんとなく」という漠然とした回答が多かったように思います。**need** を考える前に今回はセンター長の豊田さんが今回のテーマの特に **need** についてリクルート時代の経験をもとにしながらお話していただきました。取引相手のニーズに合わせて内容を変更したり、地域の人々が求めていることに合わせて教育の仕方を変えたことで、最終的に現在自分がやりたいと思っていたことができるようになったということをおっしゃっていて、大学生の私たちも聞いてよかったと思ったお話でした。

need は自分がやりたいことではなく、周りの人が求めることを現実的に考えなければいけなかったのが、漠然とした理由だった子たちはなかなかいい考えが浮かばず、私たちも具体的なアドバイスができませんでした。こうして大学生側として夢ゼミに参加して思ったのは、自分の通っていた高校にも自分の夢について真剣に考えられるような授業があったらよかったなということです。1年生のころから学校の先生以外の様々な知識のある大人の話の聞ける機会というのは私の高校時代にはほとんどありませんでした。普通の学校では経験することのできないことができるというのが島前高校のいいところなのだと思いました。

島前合宿について

私は授業で何度も学んだ海士町がどんなところなのか気になっていたのが、今回合宿に参加できてよかったと思いました。今回は海士町というより、西ノ島に滞在する時間が長かったですが、島で約1週間過ごして感じたことは、島

の方々がすごく親切で温かい人であるということ、自然の作り上げた島の景色が美しいということでした。私の想像ではもっと小さい島で、行き来するのにもそこまで時間がかからないものだと思っていたのですが、観光地に行くのに1時間かかったりと思っていたよりかなり大きな島で驚きました。隠岐は三島に分かれているので今回は知夫島には行きませんでした。海士と西ノ島を回っていて思ったのは、近藤さんや廣瀬さん、この二人を知っている島の人たちが声をかけている姿を見て、つながりの強い、いい島だと思いました。よそから自分のテリトリーに人がはいつてくると一般的な人たちは、すぐに受け入れることができず、少し距離を置きがちになってしまうと思いますが、隠岐の人たちはよそ者としてではなく、島にいる人たちと同じように温かく接してくれているのだということが伝わってきました。全国の過疎化している地域に必要なことは学校などの村の設備よりも、島の方々と同じように、住民が新しく入ってきた人たちを温かく迎え入れることなのではないかと思いました。

隠岐では、海士町の高校魅力化プロジェクトを中心としてまちづくりが行われていましたが、その中で私が島外からの学生が島の人たちとつながることができるということ点で、島親制度というものがあるというのはとてもいいことだと思いました。今回、合宿に参加したときにも近藤さんのお宅が島親となっている子が来ていましたが、本当の家族のように一緒にご飯を食べたり、話をしたり楽しそうにしていました。こういった取組みも島前高校の魅力なんだと思いました。島の人たちの島が好きだからなくなせたくないという想いで協力が得られている、ということを高校生たちがしっかりと理解してヒトツナギなどの活動を通して恩返ししていけたらいいのではないかと思いました。この合宿で得られたことを元にこれからもさまざまな地域のまちづくりを学んで、活かしていきたいと思いました。